



JAPAN HANGGLIDING FEDERATION

# JHFレポート

1・2月号  
2004年

(社)日本ハンググライディング連盟 発行

<http://jhf.skysports.or.jp/>



## HG日本選手権は鈴木選手、MPG選手権は岩田選手が優勝。

10月12日から18日まで、茨城県新治郡八郷町・真壁町(足尾山エリア)において「2003ハンググライディング日本選手権 in IBARAKI」を、10月11日から13日まで「第7回JHFモーターパラグライディング選手権 in 秋田」を秋田県北秋田郡田代町米代川河川敷エリアにおいて開催。鈴木博司選手、岩田幸雄選手が優勝しました。

写真1:HG日本選手権優勝者、鈴木選手。いま最も調子を上げているパイロットのひとり。

写真2:MPG選手権優勝者、岩田選手。上位常連の実力者が遂にトップに立った。

## 峰岸正弘さん、FAI金章・ダイヤモンド章を手に。

国際航空連盟 (FAI) が制定する「国際技能記章」のJHF発行第1号として、1992年12月28日にパラグライダー直線飛行世界記録の264.2kmを飛んだ峰岸正弘さんが、FAI国際イーグル金章・イーグルダイヤモンド章を申請、両バッジを手にしました。



## スカイスポーツシンポジウムでJHSCの斎藤紀氏が講演。

「第9回スカイスポーツシンポジウム」(社団法人日本航空宇宙学会主催、JHFほか協賛)が12月6日・7日に開催されました。今回発表された研究27件のうち、最も参加者の好評を博したのが、斎藤紀氏 (JHF安全性委員会委員) の特別講演「琵琶湖型航空機の誕生」。鳥人間コンテスト出場機 (主として滑空型) を詳細に分析したもので、発表時間 (1時間) が短すぎたほど充実した内容でした。

## 楽しく安全に自由に飛行するために。

社団法人 日本ハンググライディング連盟  
会長 朝日 和博



新年明けましておめでとうございます。  
2003年はライト兄弟が初飛行してから100年目という記念すべき年でしたが、皆様はどのような思い出あるフライトを楽しめたでしょうか。私は夏の暑いとき、標高2000mの高度で雄大な山岳を背景とした広大なエリアでの飛行が、印象的です。あの壮大な大自然のなかで、空気の流れる音のみで、あとは全く物音もしない静寂の空間を、近くの雲と眼下に広がる大地、山から流れ出る川筋、点在する集落などを見ながら、1時間ほどのフライトを堪能し、同時に自然の中の命がここにあるという生命感をも感じさせてい

ただきました。2004年とはどのような体験が出来るのかと、わくわくしながら夢を広げているところであります。

さて、JHFはすべてのフライヤーが楽しく安全に、そして自由に飛行できるよう、皆で作りに上げている組織であります。国内におけるすべてのフライヤーの集合体なので、多様な意見があるのは当然ですが、最大公約数的なところでまとまっていかなければなりません。不十分ところは、皆で智慧を出し合って作り上げていくべきものと思います。情報を交換し合いながら、安全のレベルと、楽しさのレベルを上げていくための連盟でなけれ

ばなりません。そして連盟が自主的なルールを定め、責任を持って活動することにより社会的な評価をいただき、同時に社会からの援助を頂いて、スカイスポーツのよりよい発展に寄与していきたいと思えます。

JHFは昨年度の活性化委員会の答申を受け、定款の変更も視野に入れて、これまでの問題点の見直しをしようとしています。今年も役員一同力を合わせて邁進いたしますので、皆様のお力添えをよろしくお願いいたします。



JHFレポートは、スポーツ振興くじ助成金を受けて発行しています。

### JHFレポート 1・2月号

### もくじ

P2-ハンググライディング日本選手権 P3-トップランカー決定! P4-JHFモーターパラグライディング選手権 P6-重大事故調査報告 P8-もっと前へ! 2004年度のJHF P9-よりよい組織をめざして [理事に聞く] 伊賀隆一郎 / 理事会ダイジェスト P10-県連だより 愛知県フライヤー連盟 P11-県連ニュース P12-委員会の動き P13-@sky

# 鈴木博司、堂々勝利。

2003ハンググライディング日本選手権 in IBARAKI



鈴木博司、テイクオフ。「上げには自信があるから先行しなくても追い着けると思った。」



板垣直樹、永光秀明、鈴木、大沼、安東正夫、平林和行、今嶋、和田典久。大門を先頭にゴールめざして一気に北上。13時27分、大沼が先行機を抜いてゴール。その後35秒間に鈴木、大門、平林、板垣、永光、安東の順にゴール。これぞスピードレース!

27名ゴール。全員が12時20分スタート。1位のタイムは1時間7分53秒だった。3本合計で鈴木が1位。続く大門との点差は43点。残すは1日のみ。

10月18日：タスク4：ゴール者なし

曇天。前夜の雨がうらめしい。タスク距離46.6km。後半36kmが平野部のコース。スタートは12時20分と40分。

頼りない陽射しの下、選手は少しでも高くスタートしようと頑張るが、空は暗くなるばかり。これで終わりかと思った時、大門が平野の丘の上でまわしているのが見えた。数え切れないほど旋回してジリジリッと高度を上げ、頭打ちになったところで西へ消えていった。何としても逆転するという強い意志が見える飛びではあったが、鈴木に28点及ばず。

こうして、鈴木博司の優勝が決まった。二度目の日本選手権を手にはできなかったが、世界選手権で磨いてきた勘をきかせて作戦を立て、日本一に相応しい飛びっぷり。日本選手権を4回勝ち取った今嶋に「かなわん」と言わせた鈴木が、来年はどんな活躍を見せてくれるのか。皆様、お楽しみに。（文中敬称略）

10月12日から18日まで、茨城県新治郡八郷町・真壁町(足尾山エリア)において、クラス1のハンググライディング日本選手権を開催。韓国選手2名、アメリカ選手1名を含む65名のパイロットが参加した。

大門浩二が日本選手権四連覇を果たすのか、新チャンピオンが誕生するのか、関係者一同、楽しみに初日を迎えたが、開会式後も競技できるような天候は見込めず、残念ながらキャンセル。明日こそと闘志を燃やす選手たちだったが、続く2日間も悪天候で競技できず、4日目の15日からようやく競技がスタートした。

10月15日：タスク1：ゴール者なし

タスク距離は41.8km。コース前半は山沿い、後半は西側の平野部を飛び、足尾山西麓にゴールする。スタート時間は13時から15分刻みの3回。

待ちに待った競技開始。気持ちは逸るが、雲は厚い。朝のうち霧で真っ白だった真壁町側(西側)は太陽が上がるにつれて晴れ、積雲が発達し始めた。しかし飛び立とうとする東側は曇りのまま。13時11分、最初の選手が勝負に出た。数機が続き低い雲底につくが高度獲得は苦しい。しかし、西の雲が育ち過ぎる前に、平野部の最終レグを飛び終えねばならない。間もなく大門をはじめ大多数がテイクオフ。スタートを切り高度を上げ直せた選手は筑波山方向へ向かうが、行く手には大きな雲。健闘空しくバタバタと着陸。最高13.6km。8名がほぼ同距離で1位。ミニマム距離10kmを越えたのは20名だった。

10月16日：タスク2：ゴール者3名

タスク距離は62km。後半の三分の二は山を離れるコース。スタート時間は12時20分と40分の2回。

積乱雲が発生し午後は東風(海風)が入り上がりが渋くなるという予報に、早めに飛び立った選手たちだが、リフライト続出。スタート空域に向かうグライダーの前方には大きな雲を冠った筑波山。暗

い筑波山に辿り着いた今嶋功と大門は、予想外の筑波南西面で高度を上げ、鈴木博司、大沼浩に合流。まずまず順調に平野部を横切り、最終レグに。心配されたヘッドウインドはそれほどではなかったが、シंकがきつく、大沼・今嶋は脱落。14時35分、鈴木が最初にゴール。13分後に大門ゴール。さらに15分後、ほとんど単独で動いた岡田伸弘がゴールに到達。

ゴールは3人。ミニマム距離を越えたのは33名。筑波山を離れる時点で、どれだけ高度を得ていたかが明暗を分けた。

得点計算が終わった時点で、あと2日どんなに頑張ってもデイクオリティが足りず、日本選手権が成立しないことが判明。しかし、選手権者は選べなくても、FAIカテゴリー2大会としては成立する。

10月17日：タスク3：ゴール者27名

晴れ。予報では北風が昼から東風に変わる。タスク距離55.1km。コース後半35kmは平野部。急遽、鬼怒川大橋をゴールに。スタート時間は12時20分と40分。

一斉にスタートを切った選手たちがドーッと移動していく様子に、地上から歓声が飛び、足尾山西麓にも東風が吹く中、勇んで平野部へ出て行った選手たちは、高度を1700~1800mに上げて最後のターンポイントへ。先頭グループは大門、

## 入賞者

[総合]

- 1位 鈴木 博司 岐阜県 1474点
- 2位 大門 浩二 茨城県 1446点
- 3位 大沼 浩 茨城県 1376点
- 4位 今嶋 功 鳥取県 1281点
- 5位 平林 和行 千葉県 1279点
- 6位 板垣 直樹 茨城県 1241点

[女子]

- 1位 桜井さやか 栃木県 513点
- 2位 岡田 明子 静岡県 497点
- 3位 谷古宇瑞子 栃木県 451点

[学生]

- 1位 永光 秀明 千葉県 1149点



左から大門、鈴木、大沼と、学生1位の永光。



女子1位の桜井。競技を終えて母の顔に。

# トツプランカー決定!!

HGシリーズ/Jリーグ/SPSの頂点に立ったパイロットたち



今嶋 功



岡田 明子



只野 正一郎



水沼 典子



ゼロカップで優勝した真鍋 務 (中央)

11月末の「四国三郎ジャパンカップ」パラグライディング大会を最後に、2003年のポイント競技会がすべて終了した。ハンググライディングシリーズは8大会が成立、パラグライディングのジャパンリーグは国内で9大会、スポーツパラグライダーシリーズ( SPS )は2大会が成立。それぞれのトップを勝ち取ったパイロット5人に、2003年の競技、今後の目標等を聞いた。

イマシマ イサオ

## HGシリーズ1位 今嶋 功

20年近く競技をやってきて年間ランキング1位は初めて。優勝した大会のポイントが高かったので、ついていました。でも、めざしているのは(5度目の)日本チャンピオンなので、後から結果がついてきたという感じ。

競技は参加することに意味があるとは思わない。飛行技術や戦略を駆使して勝つことに意味がある。他の選手の飛びを冷静に見ることも不可欠。自分や他の選手の実力を分析できるから、うまくなってこれたと思います。ずっと「うまい選手との差を縮める」という課題を抱えてきました。その難しい課題をこなすために進化し続けてきたし、これからも進化していきます。

10月の日本選手権で、大門と鈴木がうまくなったのを実感しました。2004年は彼らとの差を縮め、チャンピオンの座をめざします。

オカダ アキコ

## HGシリーズ女子1位 岡田 明子

競技の面白さは、他の選手のフライトを見たり話を聞いたりして「こんなことがあったの?!」と、いろいろな発見ができることにあると思います。それまで気付かなかったことが見えてきて、今度は自分もそのように飛んでみようと考えてるのは楽しいものです。実際に飛んでみて、思ったとおりにはいかないこともありますけれど.....。

女子のトップは嬉しいのですが、大会に出てくる女性パイロットが少ないのは寂しいことです。それなりのグライダー

に乗らなければ勝てないのは当然。でも、最初から諦めないでほしいのです。まずは大会に出て、うまい人たちの飛びを直に見てください。きっと何か発見できると思います。

2004年最初の「西富士ジャンクラシック」に私はオーガナイザーとして参加。楽しい大会にしたいと思います。

タダノ ショウイチロウ

## Jリーグ1位 只野 正一郎

2003年のレースは、筑波で始まり四国で終わる一年でした。筑波のワールドカップはたくさんの方に応援いただき、それが戦っているときに大きな力となって良い結果を出すことができました。世界選手権は、多くのチャンスを逃し結果は良くなかったですが、そこで得たものはすごく大きなものでした。そして、最終戦四国三郎での大会は、苦しいレースでしたが、今まで経験してきたものをすべて出し尽くして優勝できました。

今、競技を始めてからの9年間を振り返って「長かったなあ。」と思っています。いろいろな人に支えられ、調子が良い時も悪い時もいつも同じ気持ちで応援してくれた方がいたから、ここまで歩めました。飛んでいる時は独りですが、気持ちは応援してくれる人と一緒に戦ってきました。そんな方々に心から感謝の気持ちを伝えたい。ありがとうございました。

## Jリーグ女子1位 ミスヌマ ノリコ 水沼 典子

競技に参加するようになって数年経ちますが、今年もまた、自分なりに新たにテーマとなる課題が生まれ、新鮮さを与えてもらいました。競技に限らず、パラグライディングを楽しめることは素晴らしい、とつくづく思います。そ

して、影で支え、応援してくれる皆様に感謝いたします。本当にどうもありがとうございます。

2004年も、目標に向かって、できることからひとつずつ、やるべきことをやっていきます。皆様も良いフライトを!

マナベ ツトム

## SPS 1位 真鍋 務

最近、ほとんど大会に出場していませんが、片岡さんのところのゼロカップだけは必ず仲間達と参加します。こんなええ大会はありません。スピードラン競技をちゃんとしてくれるし、フライトゲームあり、酔いどれ満腹パーティーあり、砂丘ムーンライトフライトあり、豪華賞品あり、それにSPS対象大会というから最高です。

全国各地でゼロカップのような大会があれば、どんどん出かけていきたいものです。誰もが片岡さんのように上手にやれるとは思いますが、SPS大会、いやパラグライダー界を盛り上げていく秘訣はゼロカップにあるように思えてなりません。

来年も、安全第一で楽しいフライトをのんびり続けていこうと思っています。片岡さん、仲間の皆さん、ありがとうございました。

「もう、こんな時間」を、  
「まだ、こんな時間」  
に変えませんか?

WEB・カタログ・年史・社内報・CD-ROMなどの制作で、お困りのご担当者様はいらっしゃいませんか?  
ご担当者様のお仕事は多岐にわたり、何かとご多忙のこととお察しいたします。そんな方には、ぜひNPC日本印刷をご利用ください。私たちのご提供できるサービスは、版下づくり、印刷・製本ばかりではありません。膨大な資料の整理、講演のテープ起こし、インタビューをもとにした原稿づくりほか、企画から仕上げまで、トータルにお手伝いさせていただきます。どうぞ、お気軽にお声をかけください。

お気軽にご相談ください。

**NPC 日本印刷株式会社** (03) 3833-6971 FAX: (03) 3833-6883  
営業部/〒113-0034 東京都文京区湯島3-2-012 第2ツタジマビル  
 本社/〒101-0021 東京都千代田区外神田0-3-3

URL: <http://www.npc-tyo.co.jp/>

JHF賛助会員 JA03 - 002



# 第7回JHF モーターパラグライディング選手権 in 秋田

報告: 櫻井 美穂

秋田県田代町での「MPG&MHGフェスティバル2003 in TASHIRO」内のイベントとして、JHFモーターパラグライディング選手権を開催。MPG女子第一人者の櫻井美穂選手が報告する紅葉のMPG競技。

やっと好きな季節、秋がやってきた……読書の秋。食欲の秋。睡眠の秋(?)。そしてフライトの秋!

最高のコンディションが期待される時期、10月11日から13日までの3日間、秋田県北秋田郡田代町米代川河川敷エリアにおいて、第7回JHFモーターパラグライディング選手権大会が開催された。

私個人としては5回目となる大会。一つの節目として、遠距離も何のその!入賞を目指し気合充分で秋田県に向け出発した。第1回栃木大会の時には、出場者のフライト技術も……で、大会進行がおぼつかない状況だったが、年々参加人数の増加に伴いフライト技術も向上し、大会が円滑に進むようになってきたので、この第7回大会が楽しみだった。

紅葉も始まっているという話を聞いて、冬支度をしっかりしていったが、予想を思いっきりはずされた。関東よりも暖かく、いや、暑くなりそうなくらい。最高の天気、最高の東寄りの風。半袖でもいけそうなコンディションに恵まれ大会会場へ。出場者数35名。初めての出場の方も

いれば、「あ～今年もお会いしましたね!お元気でした?」と毎年出場の方もいる。そして、今年はMPG界が待ちに待った女性の出場者が、私の他に2名。MPG特有の和気藹々ムードが、より盛り上がりを見せていた。

第1日目は競技。これまでのスピードを競うものではなく、災害支援の要素を取り入れたタスク。タスク1は、スタート地点Aから東へ約6kmのB地点へフライトし、ターゲットヘシューティング(支援物資に見立て軍手を丸めたボールを投下し、遭難者に見立てた人形を発見して着ている服の上下の色を見て、次は北へ約6kmのC地点へ。高度50mでエンジンカットしターゲットにランディング。遭難者の服の色を申告。再びC地点から離陸しA地点へランディング。さらにセットタイム競技が組み合わされた。

初めてのタスクで首位に立ったのは、初参加の野口さん。2位は同点で菅原さんと石橋さん、4位に真藤さん、5位は岩田さん、塚部さんが6位だった。

午後のタスク2は、タスク1のCを省き

A地点とB地点を往復するセットタイム競技。2本目のトップは岩田さん。2位に関口さん、3位は佐々木さん、菅原さんは4位になり、5位に真藤さん。そして6位が私、櫻井だった。

2タスクともスピードレースではなかったので、気持ち的に慌てることもなく、落ち着いて競技に打ち込むことが出来た。それよりも本当に天気・風・サーマル(?)とも最高のコンディション。時間的にも余裕のある競技内容。そして、かの白神山地も眺めることが出来る、紅葉が始まった素晴らしい秋田の大地。「ああ、楽しかったし、素晴らしい景色だった!」と言わずにはいられない程だった。

お楽しみのウェルカムパーティも老若男女問わず大盛り上がりを見せ、翌日に。

2日目は競技ではなく、思いっきり紅葉の秋田を楽しむクロスカントリーだった。普段狭い所で音を気にしてフライトしている私達にとっては、正しくMPGを心の底から楽しめるフライトだった。

3日目は教員講習会のため、この2日間で大会は終了となった。本当に秋真っ盛りの秋田を堪能できた2日間。結果なんてどうでも……いやいや、そうは、やはりいきません!

総合優勝は、岩田さん。第1回の栃木大会以外は、参加したすべての大会で入賞してきた実力者が、遂に王者君臨! 賞状、トロフィー、楯に続き賞品の授与。これが、見た人みんなの度肝を抜くほどすごかった。「あきたこまち新米」30kg。マ



田代町の秋を堪能した参加者一同。楽しかった!



私たち東京海上は、日本のNGO「マングローブ植林行動計画」と「財団法人オイスカ」と協力して、東南アジア5か国において、マングローブ林の再生(海の森づくり)に取り組んでいます。

—— 地球に緑、人に安心、ひろげます。東京海上 ——



東京海上火災保険株式会社 東京都千代田区丸の内1-2-1 〒100-8050  
お問い合わせ先: ☎0120-868-100 平日/午前9:00～午後6:00(土日・祝日は休日とさせていただきます。)  
ホームページアドレス <http://www.tokiomarine.co.jp/>



地球の未来も、  
守りたいと思いました。

安心、ひろげます  
東京海上

ウンテンバイク。りんご1箱。女子優勝も同じ賞品にプラス女性の特権か？フライトスーツ付き。何とか私、櫻井が獲得。(ホッ……)

来年は、より技術の向上、出場者数の増加、特に若い女性の(ここが最大のポイント!)の出場者が増えてくると思うので、現状に甘んじることなく、私自身も、より腕に磨きをかけていきたいと思うし、「MPGは明るく、楽しく、安全に!周りの人に絶対に迷惑をかけないで!」をモットーに大切にフライトをし、たくさんの人たちにMPGの素晴らしさを広めて、来年の大会の出場者を増やすお手伝いが出たら……と、心に強く思っている。

最後に、大会スタッフの方々へ。

本当に楽しくて充実した素晴らしい大会だったと思っています。MPG大会って、やはりこうだよな～って感じるものでした。本当にお世話になりました。そして、ありがとうございました。



前列左から3位野口選手、2位菅原選手、1位岩田選手と愛犬。後列左から6位真藤選手、5位関口選手、4位佐々木選手。



女子入賞者。左から奥田選手、櫻井選手、柳田選手。

## 上位成績

### [ 総合 ]

1位	岩田 幸雄	千葉県	1730点
2位	菅原 邦仁	埼玉県	1716点
3位	野口 渉	群馬県	1578点
4位	佐々木克夫	宮城県	1569点
5位	関口 伸夫	東京都	1539点
6位	真藤 正一	滋賀県	1534点
7位	塚部 省一	栃木県	1441点
8位	櫻井 美穂	栃木県	1424点
9位	堀川 弘三	群馬県	1380点
10位	栗原 清正	茨城県	1335点

### [ 女子 ]

1位	櫻井 美穂	栃木県	1424点
2位	奥田 沙織	滋賀県	861点
3位	柳田ひさこ	群馬県	-

## ゆったり紅葉XCツアー

報告: 関口 伸夫

秋田県田代町でのMPG選手権に参加しました。今大会では2種類のフライトが行われ、1日目はコンテストとしてのフライトを、2日目は競技に関係なくクロスカントリーフライトを楽しみました。

初日は一日中晴れて暖かで微風と、まさしくMPGのための天気という感じでした。午前中にタスク1、午後にタスク2、合わせて2本で腕を競ったのですが、今回はフルトリム、フルアクセレータでフライトする必要もなく、皆さん田代町の深まり行く秋をゆっくりと楽しまれたようです。

夜は、たしる温泉ユップラにてウェルカムパーティーがあり、大宴会となり、親

睦を深め夜遅くまで盛り上がりました。

2日目は紅葉クロカンフライトツアーです。本部から12km北にある五色湖でイベントを開催していましたので、そこまで6機でクロカンイベントフライトをしてみました。もちろん競技ではありません。他のフライヤーは初日競技のABC地点と十ノ瀬山を回り、クロスカントリー飛行記録認定書を発行していただき、60km以上飛んだ選手もいました。

五色湖組はC地点に集まって、昼前に無風のなかテイクオフ。上空で集合して20分程で山瀬ダムのある五色湖上空へ到着です。イベント会場には沢山の人が集まっています、タイミング良くちょうどマ

ラソンがスタートするところでした。周りの山々は紅葉が始まりとても綺麗で、天気もいいし、気流も安定していました。会場から上がってくるバーベキューの匂いに誘われ、お腹がすいてきたので10分程で帰路につきました。

地元のスタッフの方が途中不到着に備えて待機してくださったこともすごく安心できましたし、バックアップしていただいた地元の方々に感謝いたします。心に残る楽しく安全なフライト環境を提供していただきありがとうございました。

関口伸夫:2000年度第4回MPG選手権富山大会優勝者。今回は5位入賞。

## MPG技能証移行認定事業終了報告

2003年10月31日

JHF補助動力委員会 山崎 勇光

2002年11月1日より実施してきました、モーターパラグライディング技能証 制定:2002年3月14日 新設に伴う移行認定事業は、2003年10月31日に終了いたしました。委員会としては満足のいく成果が得られたものと評価しています。この一年間、関係各位には格別なご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

補助動力技能証の改訂は、PG補助動力練習生技能証を全廃し、PG技能証体系からMPGを分離独立させるといった画期的な改革でした。従来の形はPG付帯証に練習生技能証課程が存在するという整合性の無いものでした。

近年、JHFにもFLMにも所属しないMPG愛好者が、増加の一途を辿ってきましたが、

当委員会としてはそうした愛好者へも「フライトマナー・フライトモラル」を提唱するために、是非ともJHFへの参加を呼びかける必要がありました。MPG技能証新設の最大の目的は正にそこにありました。

全国に優秀な指導実績を持った(しかしJHF教員資格を持たない)モーターパラのクラブリーダーが、相当数いることを把握していましたが、これまでは「PG教員資格」がなければJHF補助動力技能証を検定発行できず、そのPG教員資格の敷居があまりにも高かったため、普及振興活動を著しく妨げてきたことは事実です。昨年度のMPG技能証新設で、やっと全国のモーターパラ有力指導者を招致できる体制が整ったと申せます。

新体系におけるモーターパラグライディング技能証は、パイロット証と教員証のみのシンプルな構成です。MPG技能証規程新設にあたり、委員会は「教員」というよりも、むしろ「指導員」という観点から、MPG教員検定規則には独自性を盛り込みたいと考えていたのですが、制度委員会はJHF技能証規程の整合性を保つ立場上、制度改正にあたり、PG教員・HG教員と同等の資格となってしまうました。

移行認定事業は本年初頭の「文書移行認定」と秋の「研修会」の2回で終了しましたが、本来は学科検定および実技検定は教習検定委員会が開催することになっており、来年度からは正規の検定会が実施される予定です。

# 重大事故調査報告

誰も事故を望んでいない。しかし2003年後半は4件の死亡事故が発生してしまった。以下は、JHF安全性委員会の調査報告である。この報告の行間からさまざまな警鐘を聞き取ってほしい。

\*おことわり:掲載した報告は、風速などの記し方を統一する、読みやすくするため句読点を入れるなど、編集者が手を加えました。また公表後に確認できたパイロットの技能証関連の情報も補足しています。7月27日に秋田県で起きた事故については、調査続行中のため今回は掲載しません。

## 重大事故調査報告

2003年11月19日公表

事故調査委員:

下山 進(安全性委員会事故調査委員長)

岡 芳樹(安全性委員会事故調査委員)

## 平尾台事故調査報告

項目:パラグライダー飛行中の墜落事故

日付:2003年8月3日

機体:オゾン式オクターン型 Sサイズ  
(投影翼面積21.52m<sup>2</sup>)

場所:福岡県京都郡苅田町山口平尾台

## 1. 事故調査の経過

### 1.1 - 事故の概要

オゾン式オクターン型Sサイズ(パラグライダー、単座)は、2003年8月3日12時30分頃、レジャー飛行のため福岡県平尾台から離陸し、20~30分飛行した後、ランディング場上空へ向かった。対地高度は500m以上あったと思われる。高度処理のためのスパイラルを始め、3旋回ほどでかなり深いスパイラルダイブ状態になり、そのまま民家の屋根に激突。収容された病院で死亡した。

### 1.2 - 事故調査の概要

事情聴取:エリア関係者及び目撃者に事故当時の様子を聴取した。また、気象状況収集その他関係情報収集などを行った。

事故機の検証:2003年10月15日

検証事項:破断ラインの確認、交換。目視による外観検査およびテストフライト。

## 2. 認定した事実

### 2.1 - 飛行の経過

事故機の飛行経路の詳細は、搭乗していたパイロットが死亡しているため不明である。しかし、事故機は同時間帯に飛行していた他のパイロットとほぼ同一の空域、経路を飛行していたものと推定される。

目撃証言から、事故機の飛行経過は次のように推定される。

事故機は、2003年8月3日12時30分頃、

レジャー飛行の目的で、標高590mの福岡県平尾台のテイクオフ場から、北東の風(左45度方向、テイクオフ場は正対風)0~2m/sの中を離陸した。

山際は曇りで平野部は晴れ。雲底はテイクオフ場から+300mで、山際は所により雲の吸い上げ状態にあった。

離陸後、同機は平尾台のテイクオフ場前の上空域を、高度獲得し20~30分飛行。その後、テイクオフ場の正面約2km先に位置するランディング場(標高60m、高度差530m)方向に飛行した。

飛行経路上では、所により雲の吸い上げによるリフトがあり、容易に高度を獲得することが出来る状態で、多少上下する程度の気流状態の中、ランディング場を目指して飛行した。

ランディング場上空に到達した時には対地高度は500m以上であった。その後ランディング場上空で高度処理のためのスパイラル旋回を始め、3旋回ほどでかなり深いスパイラルダイブ状態(キャノピーが真下を向く状態)になり、スパイラルを継続したままの状態で民家の屋根に激突した。

事故者は墜落直後には意識があり、救急隊員に自分の氏名を告げていたが、15時24分に収容された病院で死亡した。

事故者は緊急パラシュートを装備していたが、使用操作をしたかどうかは不明。

### 2.2 - 機体の損壊に関する情報

キャノピー部分:損傷は認められない。

ライン各部:左翼Bボトムラインセンターから2本目(BR2)、左翼Cボトムライン全部(CR1、CR2、CR3)、左翼Dボトムライン外側(DR2)、右翼Dボトムライン外側(DR2)および左翼ブレークラインボトム真ん中(KML2)の計7本が破断。

ライザー部:損傷は認められない。

計器類:損傷。作動はしているものの機能障害を示す。

ヘルメット:不明。

特記事項:2階建て民家の1階屋根部分を損壊。

### 2.3 - 機体に関する情報

型式:オゾン式オクターン型Sサイズ

製造番号:OS-B-35-025 # R

製造年月日:2000年8月

耐空証明等:DHV2取得

総飛行時間:不明

総発航回数:不明

飛行重量:最小65kg~最大85kg

その他:2003年10月15日、岡委員(テストパイロット:斉藤)が、破断して

いたラインの交換を行い、スカイ朝霧エリアでテストフライトを行う。また、同月17日、下山委員(テストパイロット:高田)が堂平スカイパークエリアでテストフライトを行う。結果、特に異常は認められなかった。

### [テストフライト項目]

片翼潰し(50%)、フロント潰し、深いローリング旋回、ウイングオーバー、スパイラル等のフライトテストをしたが、いずれも異常は無くAFNORパフォーマンス、DHV2相当であった。

### 2.4 - パイロットに関する情報

女性、46歳。クロスカントリーパイロット技能証(1995年1月1日交付)、飛行経験15年。飛行経歴は本人が死亡したため不明であるが、年間飛行時間は30~50時間と、所属クラブ員の中では多く飛行していた。

### 2.5 - 気象に関する情報

#### 2.5.1 - 事故当時の風向、風速

テイクオフ場:東の風 0~2m/s

飛行経路:北東の風 0~2m/s

ランディング場:北東の風 0~2m/s

事故目撃者の証言より、現場付近の風の状況は次のとおりであった。事故発生時間帯前後にわたり、同空域に於いて事故機を含め複数機(7名)が飛行、事故発生時は2機が飛行していた。いずれの目撃証言者からも、急激な風向、風速の変化、突風等による飛行の障害となる状況は証言されていない。

### 3. 考えられる原因

事故調査をして得られた情報から、今回の事故は、対地高度が500m以上あったので練習のつもりで入れたスパイラルが、上昇風の中だったため、スパイラル初期段階は余り降下しなかったが、上昇風を抜けた瞬間に深いスパイラルダイブに移行してしまった。(事故発生の直前にスパイラル降下した他のパイロットが同様の状態を体験している。)

この時点で、機速の増加と強い遠心力のためにパニックに陥ったか、ブラックアウト状態となり意識の喪失を招いていたのではないかとと思われる。情報では事故者はスパイラルの経験が無く、また適切なりカバー操作も習得していなかったことが事故の原因として考えられる。

### 猪の頭事故調査報告

項目:パラグライダー飛行中の墜落事故

日付:2003年8月10日

機体:ダイキョー式イーデルプロミス型 Mサイズ

場所:静岡県富士宮市猪の頭

## 1 事故調査の経過

### 1.1 - 事故の概要

ダイキョー式イーデルプロミス型 M サイズ(パラグライダー、単座)は、2003年8月10日(日曜日)11時03分頃、レジャー飛行のため静岡県富士宮市猪の頭から離陸し、10数秒後に右急旋回し、270度回ったあたりでテイクオフ場に墜落した。足首骨折と打撲程度と見られ、本人も救急車を呼ばなくても良いと言ったぐらいであったが、念のため救急車を手配。墜落から30分ほどで救急車が到着し、応急処置後病院へ搬送された。病院へ収容されてから1時間ほどで容態が急変し、死亡に至る。

両足首、肋骨骨折による外傷性ショック死と診断された。

### 1.2 - 事故調査の概要

現地調査:2003年8月12日

事情聴取:目撃者から事故当時の様子を聴取した。また、気象状況収集、その他関係情報収集などを行った。テイクオフを撮影している定点ビデオに、事故発生時の映像が撮影されていたので、ビデオ解析も合わせて行った。

## 2 認定した事実

### 2.1 - 飛行の経過

事故機は2003年8月10日11時03分頃、レジャー飛行の目的で、スカイ朝霧猪の頭テイクオフ場より離陸する。事故者は離陸に先立って一度テイクオフの失敗をしている。離陸時には既にテイクオフ場のある前山上空で20数機がソアリングしていた。そのほとんどがテイクオフ場より北側上空域に滞空しており、事故機がテイクオフしてから墜落するまで、事故機の近辺には他の機体はいなかった。

事故機は離陸後、風に合わせるようにブレークを当てながら(最小沈下でリフトを最大限受ける操作)斜面から離れるように東方向へ飛行。離陸後10数秒後に右に急旋回し、そのままスカイ朝霧猪の頭テイクオフ場の南の端に墜落した。

ランディング場から事故を目撃した人によれば、機体は潰れが無く完全に開いた状態で右急旋回をした。なお、事故後も同空域を飛行していたパイロット達からは、特に気流の乱れや風向風速の変化を感じたとの情報はない。

### 2.2 - 機材の損壊に関する情報

キャノピー部分:損傷の報告はない。  
ライン各部:損傷の報告はない。  
ライザー部:損傷の報告はない。  
計器類:損傷の報告はない。  
ヘルメット:擦り傷が認められる。

ハーネス:損傷の報告はない。

特記事項:特になし。

### 2.3 - 機体に関する情報

型式:ダイキョー式イーデルプロミス型 M サイズ  
製造番号:不明  
製造年月日:不明  
耐空証明等:DHV2取得  
総飛行時間:不明  
総発航回数:不明  
飛行重量:最小80kg~最大100kg

### 2.4 - 気象に関する情報

男性。58歳。パイロット技能証(1992年5月22日交付)。

飛行経験16年(ハンググライディング経験を含む。ハンググライダーパイロット技能証は1989年11月24日に交付)飛行重量92kg。

### 2.5 - 気象に関する情報

#### 2.5.1 - 事故当時の風向、風速

テイクオフ場:南東の風 3~4m/s

飛行経路:南東の風 3~4m/s

ランディング場:南東の風 2~3m/s

西側の尾根上空レベルでは、少し西寄りの風が吹いていた。

### 3 考えられる原因

事故者は、どちらかと言うとかなり低速気味でフライトする傾向が強く、当日もテイクオフを見ていた人によれば、離陸後ハーフブレークくらいブレーク操作をしながら斜面から離れていった。しばらくまっすぐ出たところで左側のリフトにあたり、センタリングをしようとして右に急旋回をした(ローカルルールにより、当日は偶数日のため前山では旋回方向が右に指定されていた。また、事故直後事故者の救助をした人に事故者は「やっぱり、左旋回だったかな。」ともらしている。)が、サーマルから外れシンクに遭遇したこと、斜面が近かったため、さらに右側のブレークを引き込んで斜面をかわそうとしたが、低速でフライトしていたために失速気味となり、そのままテイクオフ場に墜落したものと思われる。

旋回をするのに十分な高度の余裕、山肌からの距離が確保されていない、また右旋回をすればシンク帯に入り込むことは容易に判断されるにも拘わらず、事故者が無理な右旋回操作をしたことが事故の原因と言える。

#### 剣山事故調査報告

項目:パラグライダー飛行中の墜落事故  
日付:2003年11月1日  
機体:不明  
場所:徳島県水沢村剣山山中  
目撃証言者:新聞報道による登山者2名

## 1 事故調査の経過

### 1.1 - 事故の概要

2003年11月1日13時00分頃、レジャー飛行のため徳島県剣山南西山頂付近から離陸し、2~3回旋回飛行後、尾根付近に着陸しようとしている様子の事故機が目撃された。その後、14時35分頃、別の登山者によって墜落している事故機とパイロットが発見された。

近くの山小屋より警察へ通報され、県の防災ヘリコプターによって事故者は収容され病院に搬送されたが、既に死亡していた。

### 1.2 - 事故調査の概要

事情聴取:気象状況収集その他関係情報収集などを行った。

## 2 認定した事実

### 2.1 - 飛行の経過

事故機の飛行経路の詳細は、搭乗していたパイロットが死亡しているため不明である。

目撃証言から、事故機の飛行経過は次のように推定される。

事故機は、2003年11月1日12時30分から13時00分頃、レジャー飛行の目的で高知県側剣山南西斜面(標高1954m)を南の正対風約0~2m/sの中、離陸した模様。離陸後、同機は南西斜面を2~3回旋回飛行後、尾根付近にランディングしようとしている様子が登山者により目撃されたが、その後14時35分頃、剣山山頂から約300m南の地点で、別の登山者により墜落している事故機とパイロットが発見された。

### 2.2 - 機体の損壊に関する情報

不明

### 2.3 - 機体に関する情報

不明

### 2.4 - パイロットに関する情報

男性。JHFフライヤー会員登録証無し(1993年度登録のみ)。パイロット技能証未取得。飛行経歴は本人が死亡したため不明。

### 2.5 - 気象に関する情報

#### 2.5.1 - 事故当時の風向、風速

離陸した場所:南の風 0~2m/s

事故目撃者の証言より、現場付近は晴天で見晴らしが良い状況であった。

### 3 考えられる原因

今回の事故は、単独による、且つフライトエリアではない山岳でのフライトのため、調査に必要な有効な目撃証言が全く無く、墜落原因の想定は困難である。

また事故者は、1993年に1年間のフライヤー登録をした記録があるが、1994年10月3日で失効している。技能証の取得実績も記録に無い。

# もっと前へ！ 2004年度のJHF

JHFの事業計画は、理事会が検討し案を作ります。その案を総会に議案として上程、総会に出席した正会員(都道府県連盟代表)の過半数が賛成してはじめて、JHF事業として何をやっていくかが決まります。

2003年度も残り僅か。2004年度のJHFはどんなことを計画しているのでしょうか。来年度の事業計画案概要をお知らせします。

\*総会の議案等はJHFホームページに掲載します。

## 事故ゼロへ向けて

無事故は誰もが願うことですが、今年度も重大事故が起きています。事故ゼロに向けて、JHFは次のような活動をしていきます。

### 1. 無料で気象情報を提供

民間気象情報会社と契約し、フライトに役立つ気象情報をインターネットで提供します。フライヤー会員やインストラクター・イベント主催者等の皆さんに、タイムリーな気象情報を見てもらい、事故を未然に防ぐことが目的です。

### 2. メッセージ入り吹き流しを配布

JHF登録スクール全校に事故防止のためのメッセージを入れた吹き流しを配布。フライト直前のプレフライトチェックを忘れていないか注意を促し、事故防止をはかります。

### 3. 安全セミナーを開催

指導者や一般フライヤーを対象とする「安全セミナー」を各地で開催します。マヌーバートレーニングも組み入れる予定です。

#### \*安全講習会の予定

日時:2004年8月前半

会場:長野県木崎湖エリア

日程:3日(約2週間の会期のうち都合のいい13日間を受講)

講習内容:マヌーバートレーニング

参加者:教員・助教員・フライヤー会員

詳細はJHFレポート・ホームページでお知らせします。

### 4. 安全飛行のための情報を提供

会員へのメール情報配信を始め、安全に関わる情報や事故報告、その他の情報をダイレクトに送ります。

## 社会や会員にアピール

多くの人にハング・パラグライディングのおもしろさを紹介するために、またフライヤー会員に、JHFのさまざまな活動を知ってもらい役立ててもらうため、

以下の活動をします。

### 1. ホームページをリニューアル

JHFホームページを一新し、会員向け情報はもちろん、一般向け情報も充実させ、社会にスカイスポーツの楽しさや醍醐味をアピールします。

### 2. 体協への加盟を推進

JHFの日本体育協会への加盟実現に向けて働きかけます。また、都道府県連盟が国体のデモンストレーション競技会を開催できるよう、積極的に支援していきます。

## もっと組織改革を進める

会員が希望するのはどんな組織かを第一に考え、効率的な活動ができるよう、JHFの改革を進めます。

### 1. 予算を見直す

各セクションの事業予算を見直し、限られた資源(会費等の収入)を有効に遣います。たとえば、各委員会のホームページを事務局で管理する、電子会議を中心にして交通費等の出費を最小限にとどめる、等々です。

### 2. 会員の意見を集める

会員が求めるJHF像に近づくために、会員の皆さんが気軽に意見を出せる場を作ります。

## 登録制度を活かす

JHFにはスクールや優良エリアの登録制度があります。登録スクール/エリアはJHFホームページで紹介していますが、さらに多くの登録をしてもらうために以下を実現します。

### 1. スクール登録料の値下げ

もっと多くのスクールに登録してもらい、これからスクールに入る人やフライヤーにたくさんの情報を提供できるように、登録スクールの負担を軽くします。

### 2. 優良エリア登録申請料の値下げ

スクール登録と同様に、より多くのエリアが登録できるよう、登録申請者の負担を軽くします。

## 補償制度事業を推進

JHFフライヤー会員登録をすると、自動的に第三者損害賠償保険に加入できます。このほか、次の補償制度を整備します。これらをJHFで受け付けることによって、事故に関する情報の収集、その原因調査、再発防止活動にもつながります。

### 1. 傷害補償(ケガ・死亡)

フライヤー会員の万一の事故に備えます。

### 2. 主催者賠償責任補償

スクールや大会主催者のために。

### 3. 施設賠償責任補償

スクールやエリア管理者のために。

## 日本パラグライダー協会との話し合いの結果について(報告)

(社)日本ハンググライディング連盟 会長 朝日 和博

去る11月20日、(財)日本航空協会(JAA)の計らいにより、航空会館にてJHFと日本パラグライダー協会(JPA)の話し合いが実施されました。その折、JAA角田航空スポーツ室長より、次のようなお話と宿題をいただきました。

「フライヤー会員登録」と「技能証制度」は、ハンググライダーがスタートした当時に、関係当局と調整の上、自由飛行を守るために、社会に対する自主規制として制度化されたものです。

この意味において、「会員登録」と「技能証制度」が複数存在することは、愛好者を混乱させるだけでなく、社会に対しても誤解を招くこととなります。

JAAは、ハンググライダーとパラグライダーについて、JHFを統括団体として承認しています。当然、日本選手権や世界選手権への出場もJHFの会員であり、その技能証を有する者でなければなりません。

ばなりません。

以上のお話のもとに、以下の宿題をいただきました。

JHFは、JPAと共存できる道の提案を行うこと。併せて、2004年度方針の具体化を至急に提示すること。

JPAは、JHFの中に留まり改革を努めてほしい。フライヤー登録と技能証の発行は国内統一と一歩に努めること。

また、JHFにはこの外、対応に時間が掛かり過ぎる旨のお叱りも頂戴しました。

JHFといたしまして、各方面の方々の意見も伺いながら、JPAとも共存できる道の提案をいたします。更に、来年度の事業計画・組織の改革はスピードを上げて取り組みますので、フライヤーの皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

# よりよい組織をめざして

## 理事に聞く[3]

理事 伊賀 隆一郎



JHFの舵取り役である理事一人ひとりに、自らの言葉でその活動を語ってもらいます。今回は、理事2期目の伊賀さん。ハンググライディング競技委員会、教習検定委員会の担当です。

HG競技で変わったことは？

2003年からハンググライディングシリーズの大会では、飛行証明にカメラを使わず、GPSだけにしました。世界の趨勢にならったのです。昨年度も試験的にGPSを使用しましたが、実際GPSのみに移行してみると、オペレーター不足という問題が浮上してきました。GPSデータをコンピューターに入力して得点計算をしたり、ターンポイントの座標データを選手のGPSに入力したり、大切な仕事をする人が足りない。年末年始の「西富士ジャパングラシック」から始まる2004年競技に向けて、オペレーター養成を大至急で進めているところです。

ハング競技委員会では、時代遅れにならないように、競技ルールの見直しを常に行ってきました。2004年ルールも、よりおもしろい競技ができるよう、大会経験豊富な委員の皆さんと検討しています。

2004年はクラス1女子、クラス2、クラス5の世界選手権がオーストリアで開催

されます。JHFはナショナルチームを派遣する予定ですが、選手の決定等はこれからです。

教習検定委員会関連では？

各理事の担当を決める際、教習検定委員会に手を挙げました。3年前に初めて理事選挙に立候補した時、私がフライヤーの皆さんに約束したのが、教員更新講習会の在り方をローカルの立場から考えるということでした。「更新講習会参加の義務付け」が必要というのは大勢の意見です。しかし、一ヶ所だけで、しかも何日間にもわたる開催では、ローカル教員はなかなか参加できません。

機材や飛行技術はどんどん進歩しています。教員は安全な指導のために、古いノウハウに固執しないで新しい情報を吸収していかねばなりません。そのために教員技能証の更新時に講習を受けてもらうのですが、それだけではなく、更新講習会は教員としての自分を再確認するいい機会だと思えます。

具体的にどんなプランが？

今期、教習検定委員会のメンバーとじっくり話し合って実施に漕ぎ着けたのですが、残念ながら委員会がほとんど活動無しの状態になり、検討できませんでした。ですから、私個人の考えを

お話しします。

開催場所を増やすのはお金がかかるし、教習検定委員が全国に出張するのは時間的に無理です。そこで、東北とか九州とか各地区で「更新講習員(仮称)」を選ぶのです。県連とJHFが費用を出し合っ、その更新講習員を集め講習会を開きます。もちろん個人での参加も自由です。彼らには最先端の最高の講習を受けてもらい、地元に戻ってそれぞれの地区の教員のために講習をしてもらうのです。大会と一緒にしたり工夫すれば、教員個々の負担はかなり抑えることができるでしょう。

新規教員の検定会は？

当初、2003年秋の開催を予定していたのですが、委員長をはじめ委員の何人かが新団体に参加し、教習検定委員会の活動がストップしたため、2004年3月に延期させていただきました。現在、活動可能な委員を中心に、外部の応援も得て3月23日～26日実施のための準備を進めています。参加資格のある助教員の方々には直接案内を郵送します。

## 理事会 ダイジェスト

2003年度第5回JHF理事会

2003年11月6日(木)13時～17時 JHF事務局会議室 出席者:朝日和博、荒井稔、下村孝一、関谷暢人、瀬戸口裕郎、宮田富由各理事、對馬和也監事 欠席者:伊賀隆一郎理事、宮川雅博監事(出席理事6名で定足数を満たし成立) 議長:瀬戸口裕郎

審議事項1:顧問弁護士の決定について 浅尾美喜子弁護士と顧問契約を結ぶことになった。

審議事項2:常設委員会委員委嘱停止の決定について

新団体の発起人になっている委員に対し、数回にわたり話し合いをもちかけたが、回答を得ることができなかった。検討の結果、委嘱停止ではなく、辞任勧告の手順を踏むことになった。

協議事項1:日本パラグライダー協会(JPA)への対応について

11月20日、(財)日本航空協会幹旋により、JHFとJPAの話し合いが行われた。その結果、フライヤー会員制度、技能証制度は従来通り、JHFで統一することを条件に、JHFとJPAがどのように協力できるか宿題が課された。JHFではこの課題の回答を早急にJAAに示すことに

した。下記の協議内容は、上記の話し合い以前のものであることをご承知ください。

### 1 JPAに関係する常設委員への対応

- ・設立発起人になっている委員の資格を停止することを検討する。
- ・執行部に関わるメンバーの資格についても同様。
- ・現常設委員でJPAに協力・所属するメンバーの資格についても同様。

・JHFのホームページにリンクしている登録スクールで、JPAに加入しているものについてリンクを解除する。

### 2 フライヤー会員、正会員、教員に対して

- ・全フライヤー、教員に対して経過を公開する。
- ・県連代表者が発起人になっている県連の理事に対して見解を求める。

### 3 教習研修検定会開催について

- ・引き続き計画していく。
- 協議事項2:2004年度の事業計画(案)について
- ・各部の予算を見直し、安全対策に重点をおき予算を投入する。
  - ・教員更新講習会、湖上での安全セミナーを開催する。
  - ・気象情報会社と提携し、インターネットを使い、フライヤーのための気象情報を提供する。エリア、高度によっての風情報が随時見られるようになる。

- ・JHFレポートを年間4回にし、代わりにホームページのデザインを一新し、コンテンツを充実させる。
- ・フライヤーへのメール情報配信の開始。これにより、フライヤー会員へJHFの情報をタイムリーに提供することができる。
- ・フライヤーへの傷害保険の提供。

## 訃報 宮川一郎さん

前理事の宮川一郎さんが10月11日、病氣のため亡くなりました。享年48歳でした。まことに残念です。

宮川さんは、通信社記者、東京都ハング・パラグライディング連盟事務局長を経て、2001年6月から2003年3月まで、JHFの理事をつとめられました。理事在任中は、教習検定委員会、広報出版部の副担当理事として活躍されるとともに、法務委員会のサポートにもあたっておられました。

慎んで哀悼の意を表し、宮川さんのJHFへのご貢献に深く感謝申し上げます。



和気あいあい、補助動力付パラグライダー大会の参加者。



バーベキューパーティーで県連会員の親睦を深める。



県連主催の補助動力付パラグライダー大会で楽しく競技を。

県連だより

みんなが楽しめる安全なスポーツを目指して。

愛知県フライヤー連盟  
広報担当 山口 貢太郎

ちょうど今から100年ほど前、リリエントールやライト兄弟が空を飛ぶ事にチャレンジしていました。そして、1903年12月17日、ライト兄弟による初飛行が成功しました。我々空を愛する者にとっては記念すべき100年前の出来事でした。

1974年にマイク・ハーカーによりハンググライダーが日本に紹介され、我が愛知県でもハンググライダーでの飛行が始まりました。そして愛知県フライヤー連盟の前身でもある中部フライヤー連盟が結成されました。この頃から危険なスポーツから安全なスポーツへの活動が開始されました。1986年、ヨーロッパの冒険家ポアバンにより、スポーツとしてのパラグライダーが日本で紹介され、スカイスポーツの一員に加わりました。その後1994年に愛知県フライヤー連盟が設立され、現在に至っています。

現在、愛知県連盟の会員は203名で、みんなが楽しめる安全なスポーツを目指し活動を行っています。連盟ではフライヤーの安全と技術向上、スカイスポーツ

に対する社会的信頼の向上、関係する情報の交換などを目的に、総会をはじめ、理事会の開催、各委員会活動、講習会の開催、大会の開催などを行っています。今後も、多くの方のみなさんの連盟への参加をお待ちしています。

- 愛知県フライヤー連盟沿革
- 1981年 中部フライヤー連盟発足  
会員：愛知、岐阜、三重、静岡、富山、石川、福井の中部7県の団体
- 1991年 東海フライヤー連盟設立  
中部フライヤー連盟分割  
会員：愛知、岐阜、三重、静岡の東海4県の団体および個人
- 1994年 愛知県フライヤー連盟設立  
東海フライヤー連盟分割  
会員：愛知県の団体および個人
- 2003年 会員数：個人203人、5団体計208

- 愛知県内のエリア
- 高塚  
連絡先：〒441-3427  
愛知県渥美郡田原町大字加治字恩中48-2  
AIRWORK TEL.0531-22-3535  
所在地：豊橋市高塚町  
ハンググライダー／パラグライダー  
五井山  
連絡先：〒441-3427  
愛知県渥美郡田原町大字加治字恩中48-2  
AIRWORK TEL.0531-22-3535  
所在地：宝飯郡五井町  
ハンググライダー／パラグライダー

- 新城スカイパーク  
連絡先：〒441-1311  
新城市一畝田北神田平38-46  
(伊藤広道方)  
新城パラグライダー協会  
TEL.05362-6-0114  
所在地：新城市徳定  
パラグライダー  
池の平ワンダーランド  
連絡先：〒462-0823  
名古屋市北区東大曾根町上3-1020-2  
イト2-204(鈴木義一)  
TEL.052-911-0537  
所在地：北設楽郡稲武町池の平  
パラグライダー／モーターパラグライダー  
名半エリア  
代表者：鈴木義一  
連絡先：〒462-0823  
名古屋市北区東大曾根町上3-1020-2  
イト2-204(鈴木義一)  
TEL.052-911-0537  
所在地：常滑市  
モーターパラグライダー

愛知県連盟へのご連絡は  
県連事務局：〒480-0010  
愛知県丹羽郡扶桑町大字畑尻1649-1  
(扶桑町商工会内)  
TEL.0587-93-5111 FAX0587-93-5410  
県連ホームページ：  
[http://home.owari.ne.jp/ aff/](http://home.owari.ne.jp/aff/)



県連主催の講習会。講師の話熱心に聞く。

# 県連ニュース

**埼玉県ハング・パラグライディング連盟**  
 [再度お知らせ:事務局が変わりました]  
 皆さん、こんにちは。少しでも会員の皆さんの為になれるよう活動しております。まだまだ努力不足ですが、少しでも連盟の活動が生きるよう、これからも理解と協力をお願いします。

**事務局移動の再度のお知らせ**

今年度から、埼玉県連盟事務局を(有)ジェネス内から下記の場所へ移動しています。移動に伴い、皆さんにご迷惑をおかけしています。旧事務局へ連絡や振込み等をしないように気をつけてください。よろしくお祈りします

埼玉県ハング・パラグライディング連盟

事務局:〒351-0014 埼玉県朝霞市

膝折町 2-3-7 塩野富士雄方

TEL.048-464-8763 (FAX共通)

f-shiono@nyc.odn.ne.jp

郵便口座:00170 - 4 - 296061

埼玉県ハング・パラグライディング連盟

**埼玉県連盟主催各種講習会**

この号が皆さんの手元に届く頃には2003年12月14日に行う埼玉県連盟主催のパラグライダー助教員検定会、安全講習会、教員助教員更新講習会が終わっています。

これらについては、次のJHFレポートにおいて報告をします。 [記:渡辺]

**石川県フライヤー連盟**

[地元選手も活躍、デサント大会]

10月3日~5日、ハングライダーの全国大会「22thデサントバードマンカップ2003」が獅子吼高原フライトエリアで開催されました。3日間の開催で初日と最終日の2本が成立しました。

大会初日は秋晴れの好天に恵まれ38.9kmのタスク。74機がゴールを目指し10機がゴールしました。大会最終日は初日を上回る好天で、1700mの高度でハングライダーの集団が競技開始時間と同時に一斉にスタートする光景は壮観。レース内容は36.0kmのタスクで、トップは1時間を切るスピードでゴールする、早いレース展開であった。

全国から集まったトップパイロットが、高度を移動エネルギーに変換し切れの鋭い飛びを見せてくれた本大会で、地元の腰選手がクラス5で3位に入賞したのは地元にとってもすばらしい事でした。

優勝者は下記のとおりでした。

[クラス1]

優勝 大門 浩二 茨城県

[クラス5]

優勝 藤田 直己 東京都

[記:倉 和彦]

**愛知県フライヤー連盟**

[県連主催補助動力付PG大会の報告]

去る10月19日(日)午前8時30分から愛知県常滑市の「名半エリア」にて、毎年恒例の補助動力付パラグライダー大会が開催されました。当日は天候に恵まれ、朝から絶好のモーター日和。大会エントリー者は14名で、優勝は内田清也さん、2位は北川幸一さん、3位は各務元春さんでした。優勝の内田さんは優勝トロフィー、賞品のパラグライダーを、各選手も豪華賞品を手にし大満足でした。

午後からは、参加者全員でフリーフライト。お隣の知多市の新舞子海岸(片道約10km)まで編隊飛行も楽しみました。

大会開催にあたり、県連補助動力委員会、中日パラグライダーズスクール、各メーカーの皆さんにご協力いただき、ありがとうございました。 [記:山口貫太郎]



左から内田、佐藤、北川、加藤、各務各選手。

**徳島県ハンググライディング連盟**

[パラグライダー体験講習会の報告]

11月16日(日)当連盟主催のパラグライダー体験講習会を吉野川河川敷で行いました。中学生からお年寄りまで約60人が参加。3~5人のグループに分れた参加者を、当連盟の会員がサポートして、楽しい一日を過ごしました。尚、この模様は地元新聞で紹介されました。

[記:野田克彦]



県連会員が見守るなかライズアップする参加者。

**熊本県フライヤー連盟**

[TARAGIえびすスカイフェスタ]

10月26日、熊本県南部の多良木町で「TARAGIえびすスカイフェスタ2003」が開催され、九州各地より50名の選手が集った。当日は雲一つない快晴で、かえってそれが仇になり超ド安定な渋めのコンディションとなってしまった。タスクは「ターゲット」と「ゴールレース」。ほとん

どの選手がブツ飛んでターゲット狙いの中、一瞬のサーマルを掴んだ佐賀の鶴丸選手がゴールへ向ってスタートを切る。その後も瞬間的に立ち上がるサーマルを捉まえた5人の選手がゴールへ。結局3.9kmフライトした日高選手が優勝。ターゲット競技は、井出選手と平島選手が同点となったが、経験年数の短い方ということで井出選手の優勝となった。

[ゴールレースの部]

- 1位 日高 廣人 宮崎フェニックスPGC
- 2位 鶴丸 敬明 佐賀フライヤーズ
- 3位 徳永 浩之 スカイクルーズ

[ターゲットの部]

- 1位 井出 敦朗 長崎フリーフライト
- 2位 平島 修 スパーク
- 3位 松永 博人 矢護山クラブ
- 4位 石原 薩雄 火の鳥
- 5位 越智 善治 飛遊人

[報告:福岡県から参加した越智善治]



天気は最高によかったものの.....

**鹿児島県ハング・パラグライディング連盟**

[県連主催HG&PG競技大会の報告]

2003年10月26日に川辺郡大浦町亀ヶ丘エリアにて2003鹿児島県ハング・パラグライダー競技会を開催しました。当日はコンディションに恵まれ約30名の愛好者が集い、南九州の空を舞いました。

また、後援いただきました大浦町から参加者全員に特産品が贈られるなどの心遣い、地元クラブのご協力に、県連役員一同感謝いたします。

なお、上位入賞者は次のとおりです。

- 1位 梶原 勝重 1000点
- 2位 野村 和弘 950点
- 3位 伊藤 信行 930点
- 4位 杉田 寛 760点
- 5位 中村 淳一 730点
- 6位 杉田真利子 710点

[記:田原嘉之]



左から3位-伊藤選手、1位-梶原選手、2位-野村選手。

# 委員会の動き

## 安全性委員会

11月19日の委員会で以下の報告等がありました。

1. 重大事故調査報告が4件なされた。
  - ・7/27 秋田県国見岳
  - ・8/3 福岡県平尾台
  - ・8/10 静岡県猪の頭
  - ・11/1 徳島県剣山
2. JHF改革試案FAIの組織の概要が阿部委員長より提出された。
3. 活性化委員会への回答案が提出され、委員長がチェックの後、提出することとなった。
4. 事故情報のデータベース作成状況について、現況説明があった。

[記:幸路尚文委員]

## 教習検定委員会

2003年度の教員研修検定会は、秋の実施を予定していましたが、急遽延期させていただきました。参加を予定されていた助教員の皆様に、たいへんご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。

委員会外の方々の応援もいただき、以下のように教員研修検定会を行いますので、お知らせします。

2003年度教員研修検定会

日程:2004年3月23日～26日の4日間

会場:関東近県

研修内容:講義(6項目)

検定内容:実技検定・講習実技検定・模擬飛行検定

詳細は、助教員に直接案内を郵送します。また、JHFレポート・ホームページに掲載します。 [記:伊賀隆一郎理事]

## 制度委員会

スカイスポーツの関係営利企業が集まって、新団体「日本パラグライダー協会」が誕生し、JHFと同じような会員登録と技能証の発行を考えているようです。残念なことですが、JHF分裂の危機と憂慮しています。

今回いい機会なので、諸規定を見ながら考えていきたいと思えます。

JHFは公益法人という立場で、以下の定款に基づき事業を行ってきました。定款第2章の「目的及び事業」を見てみましょう。

定款抜粋

第2章 目的及び事業

(目的)

第3条 この法人は、わが国におけるハンググライディング界を統括し、代表するスポーツ団体としてハンググライディングの普及及び振興を図り、もってわが国の国民の心身の健全な発達に寄与する

ことを目的とする。

第4条 この法人は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1)ハンググライディングの普及及び振興。
- (2)ハンググライディングに係る事故防止と安全確保に関する企画及び指導。
- (3)ハンググライディングの技能検定規則の制定及び実施。
- (4)ハンググライディングに係るスポーツ指導者の養成、認定及び指導。
- (5)ハンググライディングの日本選手権の開催並びにその他の競技会の開催、公認及び後援。
- (6)ハンググライディングの世界選手権及び大陸選手権その他の国際競技会等の開催並びに選手及び役員を選考、派遣。
- (7)ハンググライディングの競技に関する規則の制定。
- (8)ハンググライディングに関する競技記録の認定及び管理並びに表彰。
- (9)ハンググライディングに関する情報収集、提供及び出版物の発行。
- (10)その他この法人の目的達成に必要な事業。

公益法人であるJHFは上記の定款を文部科学省から承認され、活動の根拠としています。

この「目的、及び事業」の中には当然ながら、関係営利企業についての記述はありません。JHFはフライヤーを統括する団体であって、関係営利企業を統括、援助する団体ではないのです。今回の分裂の原因の一つとして、このことに不満を持たれる関係企業がいたということでしょうか？

現実的には、JHFとして事業展開を行っていくうえで、関係営利企業との協力関係は重要ですし、関係営利企業がJHFを利用したイベントの展開も行われてきました。

現状のJHFに不満があるから別団体を設立するというのも残念な気がします。我々制度委員会 といっても2名ですが、も現状のJHFに不満を持っています。不満があるからこそ、JHFをよりよい団体にするために積極的に活動してきましたし、実績も上げてきました。

また、現在は活性化対策委員会、定款検討委員会などに参加し、JHFの合理的改革を具体的に提案しているところです。

今回の分裂騒動は根が深いようで、話し合いによる解決ができればと願っていますが、現状では困難なようです。

残念なことですが、制度委員会としては、理事会の諮問により、JHF内部の制度による新団体への対応措置を提案しております。 [記:小林秀彰委員長]

## ハンググライディング競技委員会

11月26日委員会で、日下部博にかわり、副委員長をつとめてきた峰岸正弘の委員長就任が決まりました。また、各委員の役割を再検討したほか、GPSを使用する得点集計ソフトのオペレーターを養成することを決定しました。まず、2004年競技のスタートに向けて、2003年12月に第1回のオペレーター講習会を開き、その後は大会主催者とも話し合い、必要に応じて講習を行っていく予定です。

年末年始の恒例大会、西富士ジャパンクラシックから2004年競技が始まります。ポイントシステム:ハンググライディングシリーズに参加したいとお考えの方は、できるだけ早く登録をしてください。

当委員会では、世界の競技の流れを取り入れ、毎年競技ルールの見直しをしてきました。今も新年を間近に控え、現ルールの改訂が必要かどうか、最後の検証中です。改正した場合、当委員会のホームページに掲載しますので、大会にお出かけの前に必ずチェックしてください。 [記:峰岸正弘委員長]

<http://jhf.skysports.or.jp/HG/>

## パラグライディング競技委員会

11月下旬の「四国三郎ジャパンカップ」で、2003年のジャパンリーグ大会がすべて終了しました。スポーツパラグライダーシリーズ SPS 元2大会が無事に終了。準備に運営に多くを注ぎ込まれた主催者の皆様に感謝申し上げます。選手の皆様、お疲れさまでした。

当委員会では2004年の競技に向けて、特別に臨時委員をお願いし、ルールブックの見直しをしています。改定部分等はJHFホームページ上でお知らせします。

また、Jリーグ、SPSを含む公認大会の受け付けをしています。大会(公認外も含む)開催を予定されている方は、お手数ですがJHF事務局内PG競技委員会まで、電子メールまたはファクスでお知らせくださるようお願いいたします。

FAX.03-5840-8312

E-mail:jhf@skysports.or.jp

[記:荒井稔理事]

委員募集。1月9日締切りです。

JHFの各委員会の委員と広報出版部のスタッフを募集しています。好きなスポーツのために頑張りたい方、ぜひ立候補してください。立候補の締切りは1月9日(金)です。詳細はJHFホームページまたは事務局で。

# @sky

空の情報いろいろありのページ、その名もアット・スカイ。  
 いつでも心は空の彼方というあなた、必読!  
 もちろん寄稿も大歓迎。  
 大会報告、エリア紹介、フライト自慢、名物フライヤー紹介、  
 JHFへの意見など、どしどし送ってください。  
 koho@jhf.skysports.or.jp FAX.03-5840-8312

## NEWS

5月に韓国でPGアジア選手権  
 第1回パラグライディングアジア選手権が、2004年5月14日から26日まで韓国で開催される。しかし大陸選手権に参加するには技術確認のための選抜基準（ワールドカップ競技会での上位三分の二以内の成績等）をクリアしなければならず、このルールを遵守するなら、確実に参加すると見られるのは韓国と日本だけになってしまう。そこで、アジアでのスカイスポーツ発展のため、ルール適用が除外される見込み。

峰岸正弘さんダイヤモンド章を手に  
 国際航空連盟（FAI）が制定する「国際技能記章」のJHF発行第1号として、峰岸正弘さんがイーグル金章とイーグルダイヤモンド章を獲得した。申請のフライトは、1992年12月28日の南アフリカでのパラグライダー直線飛行264.2km。

全世界共通の技能証明である国際技能記章は、ハンググライダー（デルタ章）やパラグライダー（イーグル章）で課題飛行を達成したパイロットに発行するもの。パッ

ジ獲得に挑戦したい人は、まず国際記章検定員に連絡すること。次にFAIに登録されたバログラフ付きバリオメーターを用意し、指定会社で精度検査を受け、検査証をもらう。そして検定員立ち会いのもと宣言飛行を行い、課題をクリアしたら検定員の証明をもらってJHFに申請する。JHFは申請者に国際記章を発行するほか、その飛行を日本国内記録として管理する。詳細はJHF事務局まで。（国際記章に関する記事はスペースの都合で次号に掲載します。）

2005年はFAI100周年  
 2003年はライト兄弟初飛行100周年の年だったが、2005年には国際航空連盟（FAI）が100周年を迎える。2003年10月9日から12日までポーランドのクラクフで開催されたFAI総会でも、FAIの基本方針や使命、行動計画、目標等をまとめた案とともに100周年記念行事が紹介された。2005年春に記念誌の発行、秋にパリで記念総会、そのほか航空ショーや映画祭などのイベントが予定されている。2005年には、4年に一度のワールドエアゲームズも、マレーシアまたはポーランドで開催される予定。  
 FAIホームページ <http://www.fai.org/>

2002年に349件の世界記録  
 上記のFAI総会で報告された数字。  
 会員数：総会終了後のFAI正会員78、準会員12、暫定会員9、国際関連団体3。  
 世界選手権：1年間に12ヶ国で17の世界選手権が開催され、36ヶ国1501名が参加。  
 安全：2002年に292名の死者（2001年は208名）  
 世界記録：2002年に349件の世界記録を承認。世界一周最短時間記録の320時間33分、グライダー三角コース距離記録の2624km、パワードパラグライダー高度記録の5243m等が紹介された。

HG 教本改訂版を発行  
 JHFハンググライディング教本の改訂版ができあがった。執筆者の岩間雅彦さんをはじめ、指導や気象の第一人者が改訂作業にあたり、よりわかりやすいものに。頒布価格は1部1900円。ハンググライディングスクール・ショップでお求めを。直接送付を希望する方は、教本注文書（JHFホームページからダウンロードするか事務局にご請求を）に必要事項を記入し、代金・送料をお振込のうえご注文ください。振込先・送料は注文書に記載あり。

# カレンダー

☉は開催地、☎は連絡先です。予定は変更になる場合がありますので、お出かけの際は事前に必ずご確認ください。

第18回西富士ジャパクラシック  
 ハンググライディング（HG）シリーズ対象大会  
 2003年12月31日～2004年1月3日

☉静岡県富士宮市猪之頭  
 ☎岡田明子 TEL.0543-63-1429  
 E-mail:akiko-okada@mi.0038.net

第15回丹沢スカイグランプリ  
 ハンググライディング大会  
 HGシリーズ対象大会 フレキシブル/リジッドクラス 1月10日～13日

☉神奈川県秦野市横野・菩提地区（丹沢エリア）  
 ☎山本剛 TEL.040-813-0127  
 E-mail:yamamoto@mf.0038.net

2004年神奈川県PG選手権大会  
 2月23日～5月5日 ☉神奈川県

☎神奈川県ハング・パラグライディング連盟事務局 〒250-05 神奈川県足利下郡箱根町

箱根381 TEL&FAX.0460-3-5391  
 E-mail:khp5391@m12.alpha-net.ne.jp

2004板敷山スプリングフライト  
 HGシリーズ対象大会 3月17日～21日  
 ☉茨城県八郷町板敷山エリア ☎大沢豊

TEL. 0299-43-6952 FAX.0299-44-1346  
 E-mail:bumpyosawa@ybb.ne.jp

2004年パラグライダー尾神カップ  
 5月29日～30日 ☉新潟県中頸城郡吉川町尾神岳エリア

☎吉川町役場産業課 〒949-3494 新潟県吉川町下町1126  
 TEL. 025-548-2312 FAX.025-548-3011  
 E-mail:office-y@town.yoshikawa.niigata.jp

最新情報はJHFホームページをご覧ください。  
<http://jhf.skysports.or.jp/>

1月

MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN
			1 元旦	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12 成人の日	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

2月

MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11 建国記念の日	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29

**安全性委員会（JHSC）型式登録機**

輸入ハンググライダー  
 2003年10月8日登録  
 I-192 AEROS式 COMBAT 2 13型

輸入ハンググライダー  
 2003年10月10日登録  
 I-193 モイス式ライトスピード3型  
 \*最新登録機はJHF-安全性委員会ホームページで。



# 大会報告

## 梅池ジャパンカップ2003

8月23日・24日

長野県北安曇郡小谷村梅池高原スキー場

初日は好天に恵まれたが強風でキャンセル。2日目は昼頃から競技できたものの規定距離を越える選手無しでキャンセル。大会は不成立だった。 [報告:後藤俊文]

## 第18回菅平カップ

9月27日・28日

長野県須崎市妙徳山エリア

- 1位 金須 良雄 長野県
- 2位 小宮 努 岐阜県
- 3位 嶋田 淳二 埼玉県
- 4位 清野 昌宏 神奈川県
- 5位 永井 敏夫 兵庫県
- 6位 片岡 義夫 大阪府

初日はキャンセル。2日目はサーマルコンディションで10.1kmのスピードラン。11名がゴールした。 [報告:中台 章]

## 22ndデサントパードマンカップ獅子吼2003

10月3日～5日

石川県石川郡鶴来町八幡町獅子吼高原

[総合]

- 1位 大門 浩二 茨城県 1611点
- 2位 大沼 浩 茨城県 1523点
- 3位 阿部 貢造 千葉県 1455点
- 4位 永光 秀明 千葉県 1450点
- 5位 伊藤 宙陸 茨城県 1202点
- 6位 後藤 登 愛知県 1200点

[女子]

- 1位 岡田 明子 静岡県 1047点
- 2位 加味根あかり 鳥取県 384点
- 3位 澤田ほむら 神奈川県 368点

全国から74名が参加。クラス1と5が同一タスクを競った。2日目は不成立だったが、連日海風によるコンパーゼンスが発生、強い上昇風の中で競技した。最終日はいつもと違う空域でのレースになり、選手はデサントの新たな面白さを発見できたようだ。結果は大門が圧勝、クラス5では藤田が優勝を飾った。 [報告:金子外幸]

## 米こめカップ2003

10月4・5日

福島県熱塩加納村エアパーク三ノ倉高原

[エキスパートクラス]

- 1位 斎藤 孝義 栃木県 999点
- 2位 五位淵孝幸 茨城県 997点
- 3位 福田 隼士 福島県 984点
- 4位 仲田 孝宏 千葉県 981点
- 5位 岡松 和彦 千葉県 964点
- 6位 大島 泰典 山形県 925点

[オープンクラス]

- 1位 小林 康雄 青森県 738点
- 2位 畑野 明 千葉県 628点

3位 中村 有理 千葉県 620点

初日は悪天候でキャンセル。2日目、気温上昇を待って競技開始。次第に条件がよくなり、ほぼ全員がサーマルコンディションで競技を楽しんだ。オープンクラスは2本フライト、弘前大学の小林選手が逆転優勝。小学6年の吉原選手が特別賞。エキスパートクラスはJリーグでも好成績の斉藤選手が優勝した。 [報告:昆野克昭]

## ジャパンカップ2003 in スキージャム勝山

10月11日～13日

福井県勝山市スキージャム勝山

初日からどンドン下り坂の天候により、大会は不成立だった。 [報告:堀 幸雄]

## 第20回あぶくま洞オープンカップ

ハンググライディング大会

10月25日・26日

福島県滝根町仙台平エリア

[クラス1]

- 1位 小野寺啓樹 宮城県 3300点
- 2位 青柳 夏実 福島県 3300点
- 3位 呉屋 紀彰 神奈川県 3300点
- 3位 岩崎 隆司 東京都 3300点

[クラス5]

- 1位 大川 泰右 群馬県 4600点
- 2位 伊沢 茂 茨城県 4400点
- 3位 高橋 明 山形県 4200点
- 4位 藤田 直己 東京都 4200点

初日は全員飛べたもののソアラブルな状況ではなく、L/D競争のようになった。2日目は強風でキャンセル。飛行時間の長い順に順位をつけた。 [報告:松元圭一]

## 新潟県知事杯争奪

2003年尾神岳スカイグランプリ

10月25日・26日

新潟県吉川町尾神岳エリア

[総合]

- 1位 薬師寺 哲 1000点
- 2位 上山 太郎 971点
- 3位 岩波 俊雄 893点
- 4位 和田 浩二 873点
- 5位 岩瀬 茂寛 844点
- 6位 山本 泰弘 840点

[女子]

- 1位 増子 友美 595点
- 2位 田中 輝美 437点
- 3位 佐藤 祐子 381点

25日1本だけの成立。尾神では初めてのGPS使用大会で集計のトラブルもなく、無事に終了できた。 [報告:清 貞雄]

## 新人戦2003

10月25日・26日

山形県南陽市十分一エリア

[総合]

- 1位 川村 寛悟 青森県 975点

2位 浦島 祐毅 神奈川県 970点

3位 山田 友美 東京都 960点

4位 佐藤 雅彦 青森県 940点

4位 柴田 太郎 東京都 935点

6位 原田 知明 東京都 930点

[女子]

1位 山田 友美 東京都 960点

2位 田見 圭子 東京都 925点

3位 有馬 智美 東京都 885点

パラグライダーとハンググライダー合同の学生新人戦。離着陸の美しさを競った。初日は風向が変わり途中でゲートクローズ。2日目に競技続行で1本目が成立した。2本目を飛べたのは13名のみで不成立。パラのトップは弘前大の川村選手、ハングは東海大の原田選手だった。運営上学んだことを来年に活かしたい。 [石橋里江子]

## 平和カップ2003 in 広島

11月1日～3日

広島市安佐北区神の倉山&荒谷山エリア

[ハンググライダー]

- 1位 大門 浩二 277点
- 2位 大竹 直樹 251点
- 3位 大田 祐輔 246点
- 4位 藤田 直己 225点
- 5位 山寺 崇仁 221点
- 6位 松浦 彩乃 175点

[パラグライダー初心者クラス]

- 1位 岡本 洋子 2位 宇野 充弘
- 3位 山本 大介 4位 久保田恵理
- 5位 出口 寿久 6位 黒川 桂介

初日は南風が強くなり、2日目は上がりの渋い条件で、3日目は雨のため、パラグライダーのPクラス・XCクラスは不成立。初心者クラスはターゲット2本、セットタイム1本の計3本の競技を行った。ハンググライダーは初日と2日目に競技できた。 [報告:児島 彰]

## しらたかジャパンカップ2003

11月1日～3日

山形県白鷹スカイパーク

[総合]

- 1位 扇澤 郁 1000点
- 2位 柏木 一実 940点
- 3位 岩瀬 茂寛 938点
- 4位 小幡 洋三 936点
- 4位 林 洋一 936点
- 6位 西野 智博 929点

[女子]

- 1位 水沼 典子 913点
- 2位 村上 泰子 459点
- 3位 中目みどり 457点

初日は強風でキャンセル。2日目は40.7kmのレース・トゥ・ゴールで、7名がゴールした。3日目はレースができない気象条件で、急遽アキュラシー大会に変更。皆、真剣にターゲットを狙った。 [報告:植木 亨]

# ファイターの向こうに

5

込山 茂

前々回だったと思いますが、どのフライトにも必ず存在することとしてテイクオフとランディングがあると書き、写真にはテイクオフのひとつコマを選びました。そして今回、その対となるランディングの一瞬を切り取ってみました。

当たり前ですがフライトはテイクオフしなければ始まらず、そしてランディングしなければ終わりません。何よりランディングがテイクオフと決定的に違うのは「止められない」ことです。一度空中に出してしまえば、それがどんなフライトであれ必ずランディングするのです。上昇気流をうまく捕らえ、暫し空の散歩やちょっとした旅を楽しむんだ後、どんなパイロットも考え意識するはずで、「さあ、降ろすぞ」と。

ランディング場が見えてくると風向き、高度、進入コース、どこでファイナルターンを切る、などの一連の精緻な計算が始まります。狙ったところに思った通りのアプローチで降ろせた時は嬉しいものです。しかし何時でもランディングすると「ホッ」としませんか。何故かって？それはまた次のフライトを楽しむことができるからです。

さて、前回に続き今回も多賀さんに登場頂きました。と言っても今度は奥様です。そう、多賀さんは御夫婦でパラを楽しんでおられるのです。写真は群馬の小野子エリアのランディング、多賀奥様の帰還の瞬間です。この日、晴れの予報でしたがそれほど天気は良くなく、皆敢え無くぶっ飛び。ランディングの風は入ってはいましたが、やや弱めなのでオーバーを警戒してのランディングとなりました。

最初に飛んだ私は一番に降りてしまい、空中で構える暇のなかったカメラを、降りてくる仲間に向けていました。ランディングの瞬間を狙っていたのですが、なかなかバッチリのタイミングをおさえられません。思った位置よりも手前だったり、先まで行かれてしまったり。動きを良く読み、レンズの望遠をうまく使えば良いのかもしれませんが、ランディングのその時をうまく撮るにはどうすれば？なんて考えている間に皆さんさっさと降りてしまいます。そんな中でちょうど目の前に見事降りてくれたのが多賀奥様でした。折角頂いたチャンスだったのに、ちょっとピントの甘い、グライダーもぎりぎりに収まっている、いまひとつの写真にしてしまいました。でも、着地の瞬間が何とか撮れたかな、と



思っています。

厳しい読者の皆さんの鑑賞に堪えるでしょうか？

込山 茂(こみやま しげる)

毎週末、天気さえ良ければ丹沢や松田、その他飛べるエリアに出没するパラジャンキー。コンベには出ないサンデーフライヤーだがXCフライトは100Kmオーバーも記録する。飛び始めて早16年以上経つ。

## 学連だよ！全員集合！！

新年明けましておめでとうございます。と、定番のあいさつをしてみました。皆さんにとって2003年はどんな1年でしたか？いい年でしたかあー？今年からスカイスポーツを始めて、大空を飛べるようになった新入生もたくさんいるでしょう(おめでとー!!)。

新しい年を迎えるにあたり、皆さんいろいろな目標を立てているんじゃないでしょうか？「今年はソアリングをして長い時間飛ばそー！」という人、「今年は大会で上位にくい込んでやるんじゃー」というアツい人等、いろんな人がいることと思います。学連スタッフ一同、そんな一人ひとりの思いを少しでもサポートできたらいいなと思っています。みなさんにとって2004年がいい年でありますように...

[1・2月のイベント]

冬季サルオブサルズin足尾  
2月 茨城県足尾山エリア  
イベントについて

ハングの西学選、パラの合宿も終え、皆さん一息ついているところでしょう。しかし2003年度のGリーグ、HG学生リーグはパラ

フェスタ、ハング学選を残すのみとなりました。皆さん覚えているでしょうか、学連には優勝旗があることを！優勝旗をゲッツするためにも、どしどし参加して大会を盛り上げましょうね!!

また、ファイナルを迎えるにあたって、選手の人はもちろんのこと、それ以外の人も個人順位やチーム順位が気になることでしょう。ぜひ学生リーグのホームページを見て対策を練ってくださいね。

今回は、今年度の両リーグの総評を担当の人にやってもらう予定です。

それではここで、パラフェスタの準備を進めている関西学連委員の板野君から恒例の地区学連紹介をやってもらいましょう。

地区学連紹介

こんにちは！関西学連です。当学連に所属するのは、zephyr(京都周辺)、P.F.C(大阪大学)、Flying P.A.P.I.C.O(関西大学)、FLYING CIRCUS(同志社大学)、RIDGERIDERS(近畿大学)、FLYDOM(鳥取大学)、SOLYERS(福井県立大学)です。紀ノ川フライトパーク(和歌山)皆さんご存じの鳥取砂丘・霊石山(鳥取)、スキージャム勝山

(福井)を中心に、近場のエリアに目をつけては、がつつ飛びにまわりつつ、交流を深めています。

色々な大学・エリアがある関西学連。各大学同士の交流もますます盛んになって、仲良く集まっては、新たな発見・そして切磋琢磨。

関西学連のイベントといえば、毎夏恒例の砂丘合宿。今年もみんなみな沢山来ていただいて大盛況でした、ありがとうございました！そして3月には、パラフェスタが関西の紀ノ川フライトパークで行われます！寒い冬が明け、日差しが暖くなる頃。素敵な大会になるはず！是非みなさん参加してください！

イベント以外でも、関西学連はいつでもビジターをお待ちしています！大歓迎、大歓迎。

学連への連絡は.....

「学連に加盟したい!」や「もっともっと学連のことを知りたい!」などといった学連への意見や応援メッセージはこちらまで。

林田拓己(広島大学3年)

e-mail:skylab\_1025@hotmail.com



空のかお  
その53

鹿野 恭子さん  
(しかの きょうこ)



初めてパラグライダーの体験に行ったのは中学生のとき。飛べるようになりたい!と思っても、一人で東京から茨城に通うのは現実的に難しく諦めたのですが、それから6年、専門学校入学を機にパラを始め、こうしてパイロット証を頂くことができました。まだまだ堂々とパイロットですと言えるほど技術に自信がありませんが、パイロットは目標のひとつだったため、本当に嬉しいです。

パラを始めてから、普通の生活では知り合えないようなたくさんの方々との出会い、楽しいことがありました。最近では、チーム内で「部長(もちろん宴会部)」と呼ばれるほど、パラでできた友達の輪をフル活用しています。これからは、宴会部だけのホームエリアはもちろん、新たな友達の輪とパラの極意を求め、このパイロット証と寝袋とパラを持って各地のエリアにも行きたいと思っています。修行!温泉!地酒!?...いや、一応メインは修行です。そしていつか、宴会部だけでなく、「部長(飛び部兼任)」になってやる!と、静かなパラ魂を燃やし、今日もビール片手に天気予報を見えています。

連絡ノート  
JHF  
フライヤー

年末年始は業務を休みます

JHF事務局は、2003年12月27日(土)から2004年1月4日(日)まで、業務を休みます。お問い合わせや技能証の申請等は早めに済ませてくださるようお願いします。

JHF3月通常総会を15日に

2003年度のJHF3月通常総会を、3月15日(月)に羽田空港ビルで開催します。議案等は正会員(都道府県連盟)にお送りします。傍聴のご案内はJHFホームページに掲載。

教員研修検定会を実施

新たに教員をめざす方のための教員研修検定会を2004年3月23日~26日に関東近県で行います。参加資格のある助教員の皆様には、JHF事務局から直接案内を郵送します。

会員登録更新は1年または3年

フライヤー会員登録の更新登録料をコンビニでお振込みの際、二重入金をされると、返金処理に時間がかかります。必ず1年または3年のどちらかを選んでください。

各種申請・注文用紙はHPから

JHFへの各種申請用紙及び注文用紙は、ホームページ(事務局)からのお知らせ/各種申請・注文用紙 から入手できます。但し、フライヤー会員申込書、技能証申請用紙だけは、お手数ですが同じくホームページから注文用紙を入手し事務局にオリジナルの用紙をご注文ください。

JHF事務局

TEL.03-5840-8311 FAX.03-5840-8312  
(電話は月~金曜日の9:30~17:30に)  
E-mail:jhf@skysports.or.jp

レポート&HPにご意見を

JHFレポートやJHFホームページへのご意見・ご要望を事務局広報出版部にお寄せください。

FAX.03-5840-8312

E-mail:koho@jhf.skysports.or.jp

訂正

前号1ページ:「須藤彰さんのMPGフライトが公式日本記録に」のMPGをPPG(パワードパラグライディング)に訂正します。また、写真2の説明で「...賞状を授与される...」としましたが、正しくは日本記録証を授与です。前号11ページ:「MPG日本記録更新、須藤彰の挑戦」のMPGをPPGに訂正します。

10月・11月のパイロット証取得者

(敬称略 数字は認定日)

10/1 中里 勝一	10/21 津留 亮介	10/30 斎藤 一之	11/14 金山 禎孝	11/11 中村 英絵
10/3 柏木 弘	10/21 小野 幸司	10/30 長谷川 尊史	11/14 金山 祥美	11/26 平川 学
10/3 岡田 真幸	10/21 本多 康雄	10/30 野呂 桂	11/14 大平 智子	11/26 豊高 永
10/3 西山 勝美	10/21 小林 康雄	10/31 大川 桂	11/14 本田 貴裕	11/26 藤田 修平
10/3 高橋 栄子	10/21 佐藤 裕一	10/31 豊島 勝壽	11/17 福田 真一	
10/3 高橋 昌浩	10/22 伊藤 光寿	11/4 望月 博子	11/17 堅渕 敬彦	
10/3 高橋 謙二	10/22 渡辺 寿	11/4 佐藤 裕行	11/19 齋藤 敬彦	モーターパラグライディング
10/8 高橋 栄次	10/22 西田 毅	11/5 杉山 厚夫	11/19 藤田 秀夫	10/3 兵頭 徹
10/8 谷元 昌学	10/23 勝部 弘幸	11/5 東村 ツヤ子	11/19 高橋 桐生	10/3 上田 敏幸
10/8 渡辺 孝	10/23 三浦 茂	11/5 服部 信江	11/19 安田 朝子	10/8 鈴木 孝世
10/8 平 英男	10/23 立川 洋之	11/5 諸田 賢文	11/21 渡部 涉	10/15 國谷 博久
10/8 橋本 由子	10/23 清川 信男	11/5 伊藤 文博	11/21 小橋川正樹	10/15 多胡 光純
10/8 中村 和義	10/23 佐藤 剛彦	11/7 寺賢 孝	11/21 安藤みず穂	10/16 吉川 隆夫
10/8 高峰 正行	10/23 高見 翔吾	11/7 大石 勝	11/21 田中 久美	10/16 丹藤 善博
10/8 本城 翼	10/28 山下 政数	11/7 高橋 雅也	11/21 清水佐和子	10/16 栗原 清
10/8 水野加奈子	10/28 藤井 猛	11/7 飯田 忠宏	11/21 田中 裕子	10/16 栗原 清
10/8 安田 賢二	10/28 大田 豊彦	11/7 矢吹 公正	11/26 倉澤 健一	10/16 金井 博美
10/8 安田 文夫	10/28 石橋ひろみ	11/7 高野 眞治	11/26 中村 幹雄	10/17 寺田 悠悦
10/8 岩田 努	10/28 真野 義之	11/11 澤永 幸雄	11/28 中村 博行	10/17 角田 長司
10/10 陶山 真吾	10/28 菊池 康之	11/11 渡邊 康之	11/28 中村 尊義	10/17 真藤 正一
10/10 梶田 安政	10/28 高橋 育代	11/11 寺尾 孝之	11/28 武田 毅	10/30 一田 尊夫
10/10 石井江見子	10/28 市ノ澤美華	11/11 橋本 周明	11/28 大竹喜代一	10/30 菅原 邦仁
10/10 齋藤 尚彦	10/28 菅谷真理子	11/11 柿沢ゆう子	11/28 大西 伸夫	10/30 熊谷善美夫
10/10 渡辺 晴信	10/28 堀二 浩二	11/11 磯貝 義仁	11/28 笹俣 真理	10/30 杉本 隆昭
10/10 米村 昌三	10/28 白井 幸恵	11/12 平川 直子		10/30 光山喜一郎
10/15 清水 浩一	10/28 鹿野 恭子	11/12 田中 敬子		11/4 関口 伸夫
10/16 勝俣 大介	10/28 山内 肇	11/12 田中 真一		11/4 小川 光之
10/16 稲木 昭一	10/30 佐藤 敬	11/12 古川 昇	ハンググライディング	11/4 加藤 賢二
10/16 田島 典彦	10/30 三好 淳史	11/12 丸山 和重	10/21 小森 和孝	11/4 堀川 弘三
10/16 掛田 敬三	10/30 藤原まゆみ	11/12 永井 孝昌	10/22 高橋 和良	11/4 三浦 義浩
10/17 河田 淳	10/30 西沢 秀剛	11/12 田中 紀好	10/22 大野 兼太	11/4 栗原 清次
10/17 河田 明美	10/30 小林 恵明	11/14 関口 淳	10/28 林田 拓己	11/26 加藤 善行
10/17 渡辺 安雄	10/30 志村 進	11/14 遊田 勝	11/14 石倉 義之	

11月30日までのフライヤー会員登録数

登録年数	9月30日現在の有効登録数	10月の登録数	11月の登録数	11月30日現在の有効登録数
1年		686	401	
3年		464	223	
合計	18,732	1,150	624	18,959

10月・11月の技能証発行数 ( )内の数字は発行数中の女性の人数です。

技能証種類	ハンググライディング			パラグライディング			
	10月の発行数	11月の発行数	11月30日までの発行数累計	技能証種類	10月の発行数	11月の発行数	11月30日までの発行数累計
A証	23(5)	9(1)	12,345	A証	218(84)	149(52)	49,303
B証	21(4)	7(1)	11,908	B証	130(39)	83(26)	43,886
C証	5(2)	6(0)	7,150	NP証	97(23)	41(11)	11,620
P証	5(0)	5(1)	5,074	P証	70(13)	52(14)	20,618
補助動力証	0	0	32	補助動力証	2(0)	1(0)	870
XC証	0	2(0)	1,226	XC証	15(1)	16(1)	4,352
タンデム証	1(0)	0	53	タンデム証	9(0)	14(0)	926
モーターパラグライディング							
				P証	18(0)	7(0)	266

編集を終えて

2003年も終わりを迎えました。この一年間のフライトは、皆さんにとって充実したものだったでしょうか。それぞれ今年の経験を活かし、来年も安全なフライトで空を楽しんでいきましょう!  
JHF広報出版部 三浦郁世

JHF ホームページもご覧ください。

<http://jhf.skysports.or.jp/>

今秋、JHF ホームページの更新が遅れたことをお詫びします。正確な情報を速やかにお知らせできるよう努力していきます。

JHFレポート1・2月号(No.181)

発行日 2003年12月20日 定価10円  
発行 社団法人 日本ハンググライディング連盟  
〒112-0003 東京都文京区春日2-24-11春日Shimaビル8階  
TEL.03-5840-8311 FAX.03-5840-8312  
E-mail : jhf@skysports.or.jp  
編集 JHF事務局広報出版部  
印刷 日本印刷(株)

この印刷物は再生紙を使用しています。